

平成16年度病害虫発生予察 予報第5号

平成16年8月13日  
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気象（平成16年8月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

<特に注意を要する事項>

九州北部地方では気温が高く、降水量の少ない状態が続いています。このような状態は少なくとも8月中旬にかけて続く見込みです。

九州北部地方では、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込みです  
週別の気温は1週目、2週目、3～4週目ともに平年並が高いでしょう。

要素別確率 単位(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病(穂いもち) 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類	- 並 やや少 少 -	やや少 やや多 並 やや少 やや多
大豆	ハスモンヨトウ(注意報第5号)	多	多
トマト	黄化葉巻病(防除情報第9号)	多	多
いちご	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 やや少 並	並 並 やや少 並

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
かんきつ	黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	少 並 やや多	少 並 やや多
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや少

茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ クワシロカイガラムシ (注意報第6号) カンザワハダニ	やや少 やや多 並 やや多 やや多 多 並	やや少 やや多 並 やや多 やや多 多 並
ツツジ	褐斑病 ツツジゲンバイ	やや少 少	やや少 少

【普通期水稲】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病(穂いもち)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、葉いもちの発病株率は0.4%(2.7%)、発生圃場数は111筆中13筆であった。

(2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発病株率は1.0%(2.8%)であった。

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、発病株率は2.2%(2.9%)、発生圃場数は111筆中28筆であった。

(2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率7.4%)。

(3) 向こう1か月の気温は高い見込みであり本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

粉剤や液剤は株元に十分かかるよう丁寧に散布する。

3. トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、トビイロウンカの株当たり虫数は0.01頭(0.06頭)であった。

(2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、トビイロウンカの寄生は認めなかった(株当たり虫数0.6頭)。

(3) 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

4. コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、食害株率は4.8%(22.8%)、発生圃場数は111筆中104筆であった。追い出し調査による10㎡当たりの成虫数は3.1頭(3.9頭)、発生圃場数は111筆中83筆であった。

(2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は4.0%(53.4%)であった。

5. 穂吸汁性カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の早期水稲におけるすくい取り調査の結果、20回すくい取り当たり虫数は0.5頭(0.2頭)、発生圃場数は46筆中11筆であった。

(2) 8月上旬の雑草地におけるすくい取り調査の結果、10回すくい取り当たり虫数は8.4頭(15.9頭)であったが、一部の雑草地では発生が多かった。

(3) 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

表 雑草地における発生状況

種類名	H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5	平年	H 1 6
ホハリカメシ	2.6	3.0	1.3	0.7	2.8	1.3
クモハリカメシ	1.2	1.3	1.5	0.4	1.5	0.7
シラホシカメシ	1.4	1.2	1.2	0.7	1.4	0.9
アカシジカスミカメ	23.1	6.6	5.4	6.6	8.4	5.5
計	28.3	12.2	9.7	8.4	15.9	8.4

注) 数値は10回すくい取り当たりの虫数  
平年値はH6～15年の最大最小値を除いた平均値

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期以降の除草は本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行わない。
- (2) 畦畔雑草や周辺雑草地を含めて広域一斉防除を行う。

【大豆】

1. ハスモンヨトウ

平成16年8月13日付、病害虫発生予察 注意報第5号による。

【トマト】

1. 黄化葉巻病

平成16年8月13日付け、病害虫発生予察 防除情報第9号による。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査の結果、発病株率0.1%(0.2%)、発生圃場数は33筆中2筆であった。

2. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)による発病株率は0.1%(1.0%)で、発生圃場数は33筆中1筆であった。また、*G. cingulata*による発病株率は0.9%(0.4%)で、発生圃場数は33筆中5筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.6%(2.6%)、発生圃場数は33筆中2筆であった。

4. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は2.9%（3.1%）、発生圃場数は33筆中6筆であった。

【かんきつ】

1. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.1%（10.7%）、発生圃場数は39筆中2筆であった。

(2) 8月上旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は5.0%（38.7%）であった。

2. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は14.5%（13.8%）、発生圃場数は39筆中25筆であった。

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、被害果率は果梗部0.2%（2.6%）、果頂部0.1%（0.7%）、被害果発生圃場数は39筆中3筆であった。

(2) 県予察圃場（諫早）における黄色粘着トラップ調査の結果、誘殺量は平年より多い（図）。

(3) 8月上旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、果梗部被害果率5.0%（4.0%）、果頂部被害果率4.0%（0.3%）であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 下表の発生ピーク予想日を目安に発生状況に応じて薬剤散布による防除を行う

(2) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

(3) 昨年、後期加害による果頂部のそばかす症が発生した圃場では特に注意する。

(4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

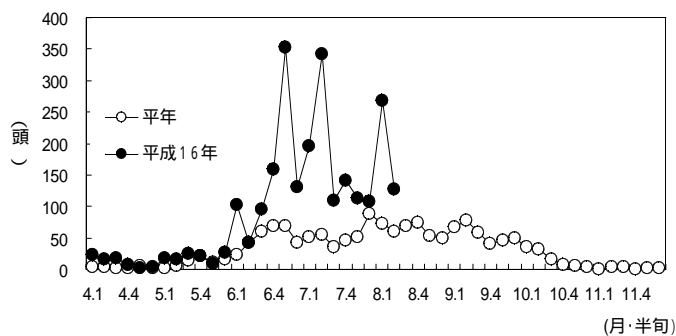
表 発生予測プログラムによる発生ピーク予想日

地区名	多良見	長 与	西 彼	諫 早	大 村	佐世保 (宮)	佐世保 (針尾)	国 見	北有馬
第6世代	8/21	8/25	8/26	8/23	8/18	8/25	8/22	8/15	8/22
第7世代	9/9	9/12	9/14	9/11	9/6	9/12	9/10	9/3	9/10

注1：発生ピーク予想日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2：プログラムに使用する気温データには、JPPネット5kmメッシュを利用。

注3：同一地区内でも標高などで発生ピーク予想日が異なるので注意する。



チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早：黄色粘着トラップ)  
\*平年値は平成6～15年の平均

【果樹共通】

果樹カメムシ類

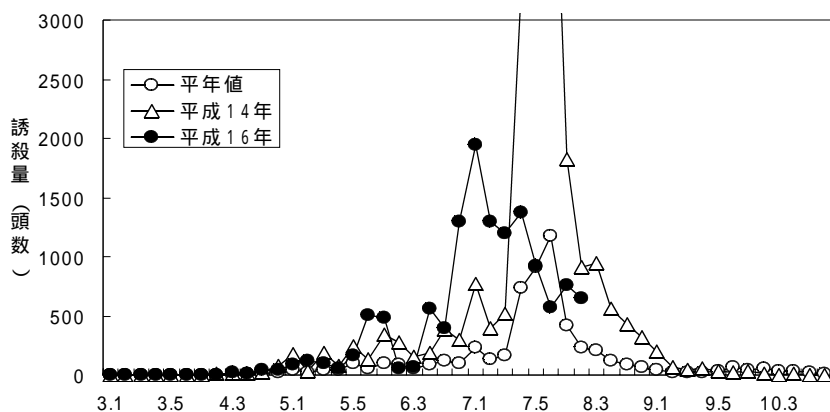
1) 予報内容

発生程度 やや少

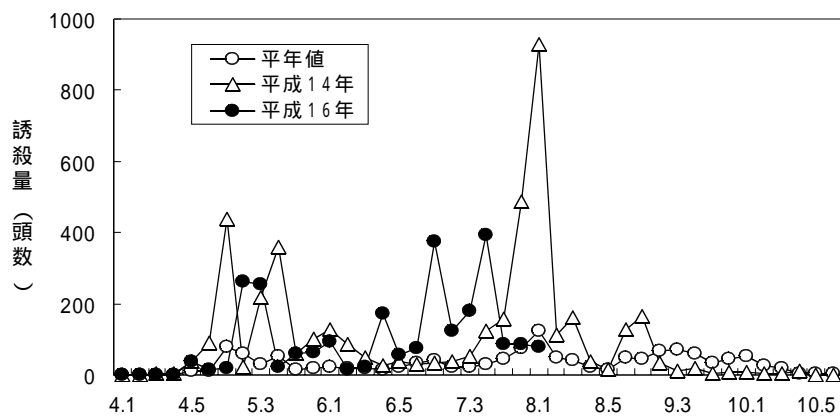
2) 予報の根拠

本年は越冬成虫量が多く、5月以降、フェロモントラップ(諫早市)および予察灯(諫早市)での誘殺量は多い状況が続いたが、越冬成虫が減少する時期となる8月に入ると誘殺量は減少している。

また、ヒノキ口針鞘の調査によると本年のヒノキきゅう果からの離脱日は9月2日と予想されるが、8月以降に発生する当年世代成虫の発生の目安となるスギおよびヒノキきゅう果量は少ない。



第1図 カメムシ類(チャバネ+ツヤアオ)のフェロモントラップ(黄色コガネコール)による誘殺量(諫早市)(月・半月)  
平年値:平成11～15年の平均



第2図 カメムシ類(チャバネ+ツヤアオ)の予察灯(青)誘殺量(諫早市)(月・半月)  
平年値:平成8年を除く平成6～15年

表 スギ、ヒノキきゅう果におけるカメムシ類の寄生状況およびヒノキきゅう果の口針鞘数

調査月日 7月21日～23日

スギ	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計	
多良見町東園	0.2	0	0.1	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0.4
長与町岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
時津町子々川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西彼町小迎	0.2	0	0.1	0.3	0.6	0	0	0	0	0	0.6
西海町木場	0.4	0	0.1	0.1	0.6	0	0	0	0	0	0.6
諫早市長田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大村市今村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東彼杵町赤木	0.1	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0.2
瑞穂町伊福	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国見町百花台	0	0.1	0.1	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0.2
有家町新切	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0	0	0.2	0.3	0.4
北有馬町下内中尾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐世保市宮	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0.1
佐世保市針尾	0	0	0.1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0.1
平均	0.06	0.01	0.04	0.05	0.16	0.01	0.00	0.00	0.01	0.03	0.19
平年	0.08	0.06	0.05	0.09	0.29	0.04	0.02	0.02	0.06	0.15	0.44

ヒノキ	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計	口針鞘数
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計		
多良見町東園	0.1	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0.2	5.4
長与町岡	0.3	0.2	0	0.1	0.6	0	0.2	0	0	0.2	0.8	0.9
時津町子々川	0.1	0.1	1.0	0.7	1.9	0	0	0	0	0	1.9	2.5
西彼町小迎	0.2	0	0.1	0.2	0.5	0	0	0	0	0	0.5	7.6
西海町木場	0.1	0.2	1.1	0.3	1.7	0	0	0	0	0	1.7	5.9
諫早市長田	0	0	0.2	0.1	0.3	0.1	0	0	0	0.1	0.4	0.2
大村市今村	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0.1	1.8
東彼杵町赤木	0.1	0.2	0.1	0.5	0.9	0	0	0	0	0	0.9	1.4
瑞穂町伊福	0	0.1	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0.2	6.5
国見町百花台	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	0.4
有家町新切	0.4	0	0	0.2	0.6	0	0	0	0	0	0.6	1.6
北有馬町下内中尾	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0.4	7.5
佐世保市宮	0.2	0	0	0.2	0.4	0	0	0	0	0	0.4	0.1
佐世保市針尾	0.1	0.2	0.1	0	0.4	0	0	0	0	0	0.4	1.1
平均	0.12	0.09	0.19	0.19	0.59	0.01	0.01	0.00	0.00	0.03	0.62	3.06
平年	0.28	0.15	0.17	0.26	0.86	0.05	0.01	0.04	0.11	0.22	1.08	2.08

年度	13	14	15	16
7月下旬口針鞘数	0.2/球果	5.94/球果	0.10/球果	3.06/球果
調査日	8月1日	7月16日	7月23日	7月22日
離脱予想日	9月23日	8月16日	9月14日	9月2日

調査はビーディング法で行い、平年は平成9～15年の平均

虫数は1枝当たり頭数、口針鞘数は1果当たりの本数

ヒノキきゅう果からの離脱の目安となる口針鞘数は1果当たり25本以上とされている。

【 茶 】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査の結果、1㎡当り病葉数は1.0枚(5.3枚)、発生圃場数は20筆中7筆であった。

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、たたき落とし虫数は26.8頭(14.3頭)、発生圃場数は20筆中19筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 秋芽への被害は、翌年の発生量や一番茶への影響が大きいため、早期に防除を行う。

(2) 薬剤が葉の裏によくかかるように散布する。

3. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、たたき落とし虫数は1.1頭(0.7頭)、発生圃場数は20筆中11筆であった。

4. チャノコカクモンハマキ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、巻葉の発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.2枚)。

(2) フェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は平年より多い。

3) 防除上注意すべき事項

雌成虫の発蛾最盛期から7~10日後に薬剤散布すると効果が高い。

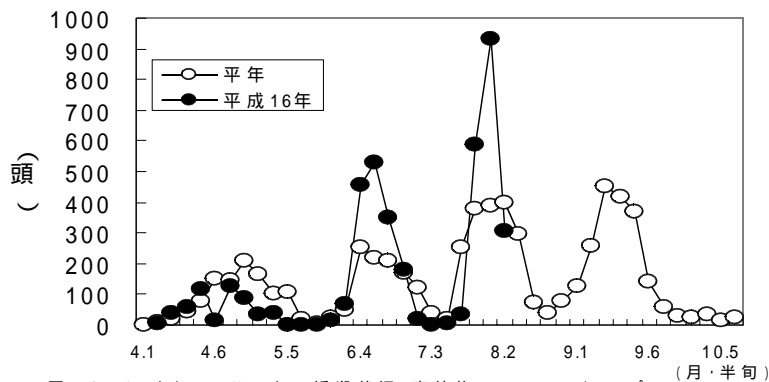


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)  
\* 平年値は平成7~15年の平均)

5. チャノホソガ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.8枚)。

(2) フェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は平年より多い。

3) 防除上注意すべき事項

チャノキイロアザミウマやチャノコカクモンハマキとの同時防除で対応する。

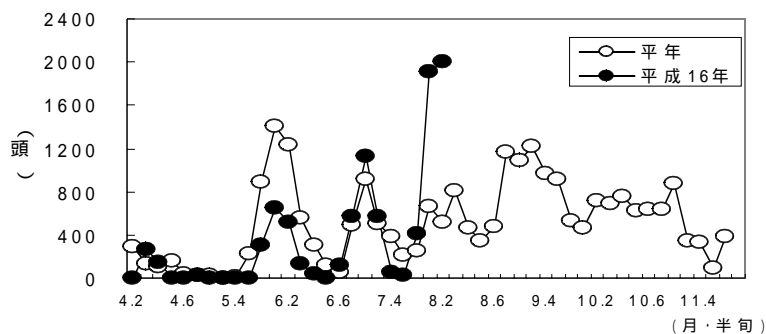


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)  
\* 平年値は平成7~15年の平均)

6. クワシロカイガラムシ

平成16年8月13日付、病害虫発生予察 注意報第6号による。

7. カンザワハダニ

1) 予報内容 並  
発生程度

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.1% (0.3%)、発生圃場率は20筆中2筆であった。

(2) 県央農業改良普及センターによると一部で多発している圃場もみられる。

【つつじ】

1. 褐斑病

1) 予報内容  
発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.6% (5.8%)、発生圃場数は11筆中4筆であった。

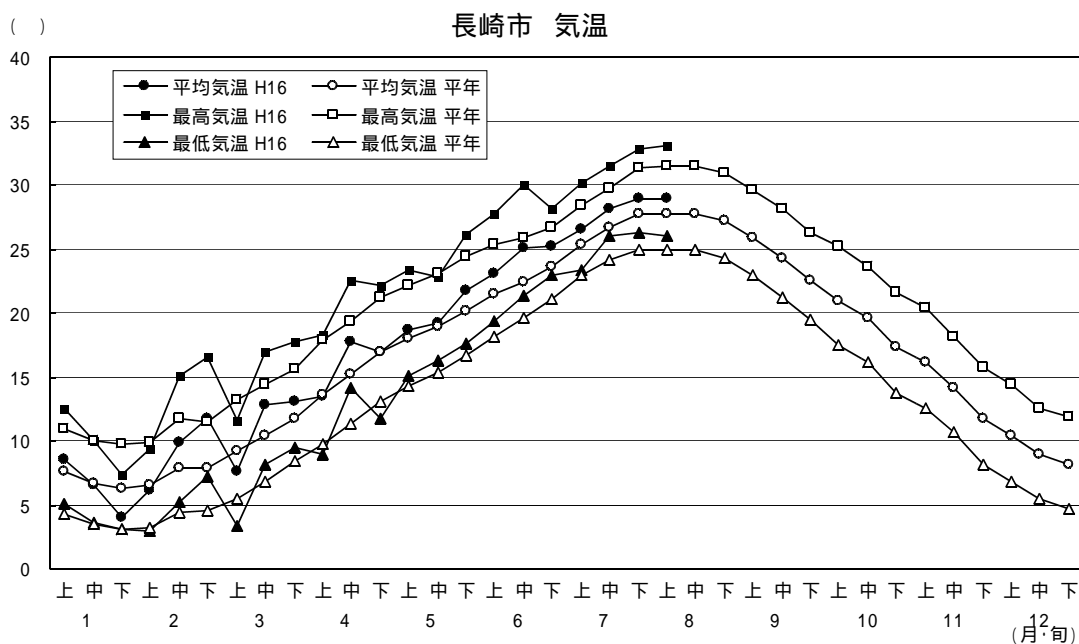
2. ツツジグンバイ

1) 予報内容  
発生程度 少

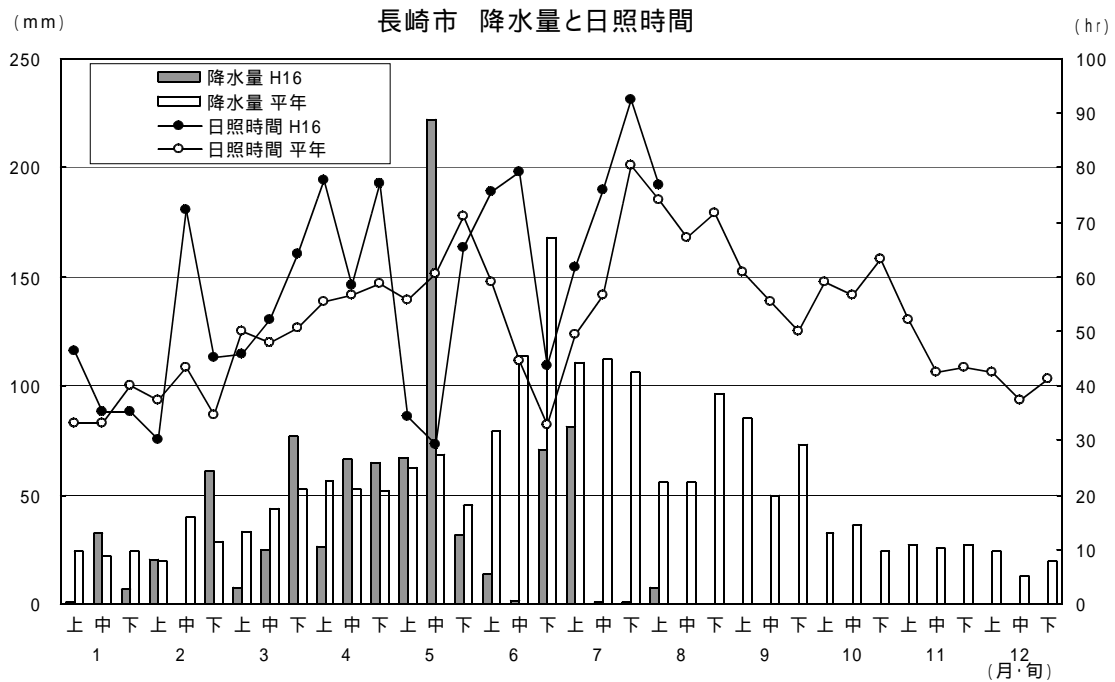
2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査の結果、10株当たり寄生虫数は0.4頭 (7.0頭)、発生圃場数は11筆中5筆であった。

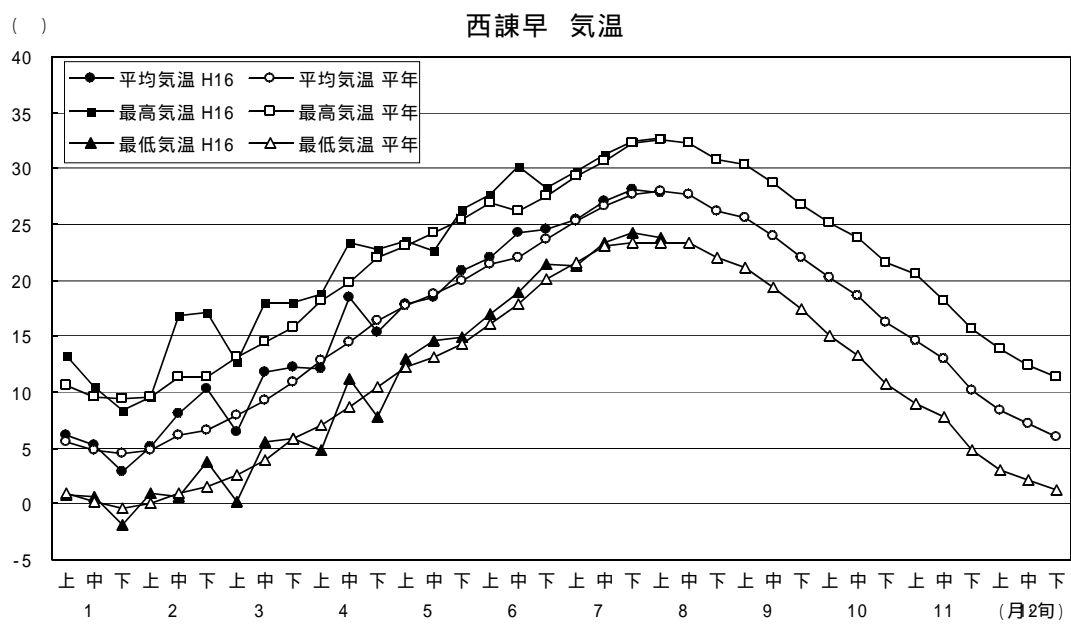
平成16年の気象経過 (長崎海洋気象台)

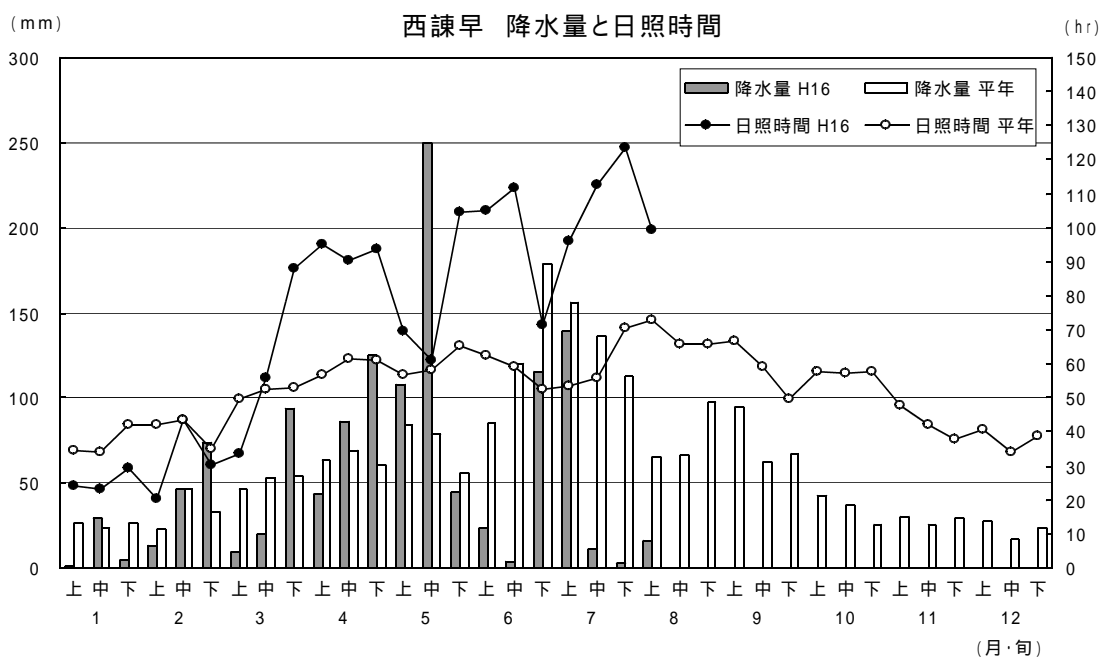






平成16年の気象経過 (総合農林試験場)





## 農薬を使用されるみなさんへ

### - 農薬使用基準の遵守 -

適用作物、希釈倍数、使用時期、総使用回数などの農薬使用基準を遵守することが義務づけられました。

農薬はラベルをよく読んで正しく使用しましょう。

なお、詳しいことは、県病虫害防除所ホームページの「**農薬取締法について**」をご覧ください。  
 なるか、病虫害防除所や最寄りの農業改良普及センター等へお気軽にご相談ください。

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用下さい。  
 「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpjn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制、  
 アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールで  
 長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027  
 Eメール：[kngs0301@sp.jpjn.ne.jp](mailto:kngs0301@sp.jpjn.ne.jp)